

# 資本と地域

第5号

---

巻頭言	中野一新
地域経済研究会シンポジウム<<摘録>>	
「地域経済の階層性と関係性ー市場システムに着目してー」	
地域経済と市場システムー階層構造を織り成す経済空間ー	池島祥文 (1)
西洋経済史と経済空間ーラテン・アメリカ研究の立場からー	渡邊英俊 (8)
報告資料	(22)
総合討論	(37)
地域経済の現場から	
「芭蕉元禄のまちづくり」	堀富士夫 (50)
書評	
堀富士夫著『郷土力を活かす市街地再生のまちづくりー地域内再投資による「芭蕉元禄ミュージアム回廊構想」』(文理閣、2008年)	富樫幸一 (55)
書を持って街に出よう	
京都市における町内会を中心とした自治活動	小山大介 (57)
学会参加記	
趣味と研究	森本壮亮 (60)
研究の周辺	
研究の面白さとは何か	林昌宏 (62)
研究会活動報告	(64)
会員紹介	(67)
地域経済研究会会則、投稿規定	

地域経済研究会

## 地域経済研究会の会則及び概要

### 地域経済研究会会則

#### 第1条 (名称)

本会は、地域経済研究会と称する。

#### 第2条 (目的)

本会は、地域経済に関する研究及びその普及、並びにこれらの研究者の連絡協同を目的とする。

#### 第3条 (事業内容)

本会は、研究会の開催、会誌及び書籍の刊行、その他本会の目的を達成するに適当な諸事業を行う。

#### 第4条 (会員)

本会の目的に賛同して会員となるには、本会に申込み、事務局の承認を受けることを要する。会員は、年会費 1,000 円を納めることとする。

#### 第5条 (代表者)

会員によって互選されたものが代表者となり、会務を執行する。

#### 第6条 (事務局)

代表者のもとに事務局及び会計担当者をおき、日常の業務を執行する。

#### 第7条 (事務所)

本会の事務所は、京都市左京区吉田本町京都大学経済学研究科の岡田知弘研究室に置く。

#### 第8条 (設立年月日)

本会は、1996年5月11日に設立する。

### 地域経済研究会の概要

#### 【概要】

本研究会は、地域経済の理論、歴史、現状に関心のもつ研究者、大学院生、社会人が、隔月で開いている研究会である。

#### 【会の略史】

1996年5月11日(土) 第1回研究会開催

2009年2月7日(土) 第71回研究会開催

#### 【代表者】

岡田知弘(京都大学大学院経済学研究科教授)

#### 【事務局・会計担当者】

三重遷一(京都大学大学院経済学研究科)

池島祥文(京都大学大学院経済学研究科)

#### 【機関誌】

『資本と地域』(毎年1回発行)

#### 【事務局連絡先】

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院経済学研究科 岡田知弘研究室

Tel/Fax : 075-753-3462 (研究室直通)

E-mail : okada@econ.kyoto-u.ac.jp

## 投稿規程と執筆要項

### 投稿規程

1. 本誌は主として、地域経済研究会内外の会員による地域経済および関連諸分野の研究成果を掲載する。
2. 本誌は年刊として、毎年1回発行する。
3. 本誌への投稿に際しては、以下の規定に従うこと。
  - (1) 本誌への投稿原稿は、地域経済および関連諸分野に限る。
  - (2) 他で審査中あるいは掲載予定となっているものは、本誌への投稿・発表を認めない。
  - (3) 投稿者は事務局宛に以下の全てをメールすること。
    - ・ 原稿のファイル
    - ・ 原稿の表題、投稿者の氏名・ふりがな、所属機関名と肩書等、連絡先[郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス]
4. 投稿原稿については編集委員会で審査し、掲載の採否を決定する。
5. 本誌掲載に際しての著者校正は1回(初校のみ)とする。
6. 原稿執筆の様式は執筆要項に従うこと。
7. 原稿およびその他の送付物はいずれも返却しない。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は地域経済研究会に帰属するものとする。なお、論文等は一定期間経過後、電子メディアによる論文情報検索・参照サービス等を利用して公開する。
9. 投稿の宛先は、地域経済研究会事務局宛(okada@econ.kyoto-u.ac.jp)とする。

### 執筆要項

1. 論文は図表を含めて30,000字程度とする。
2. 書評は4,000字以内とする。
3. 原稿は、横書きで、句読点も含めて1桁1字(欧文および数字は1桁2字)で作成する。ワープロを使用する場合は、余白・行間を充分にとること。
4. 注は、引用注・説明注を区別せず、通し番号を付して一括して本文の末尾に記す。章あるいは節ごとに分割しない。なお、引用・参考文献の表示方法については、WEBサイト(<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~okada/>)において、引用文献の表示方法の標準的なスタイルを示しているので参照されたい。
5. 人名など特殊な場合以外は、なるべく常用漢字・新かなづかいを用いる。なお、資(史)料を引用する場合は、かなづかいはそのままとし、旧字(正字)の部分を通用の書体(新字)に直す。たとえば「圓」は「円」、「鐵」は鉄。
6. 単位の表記については、スペースを節約するため、できるだけ%、kgなどの略字を用いる。数字の表記については、原則としてアラビア数字を使用する。桁数の多い数字の場合は、「5億6,524万円」のように適宜単位を補ってもよい。
7. 謝辞は掲載できない。

2008年5月10日 一部改正